



▲簡易トイレキットの使用体験

10月19日、南部屋内運動場と芳川公民館を会場として、防災と健康フェスタが開催されました。南部屋内運動場では、簡易トイレキット使用体験や災害に役立つロープワークなどの防災啓発と、公民館駐車場では、放水消火体験や火起こし体験などがありました。子どもと一緒に体験し楽しめるブースもありました。

芳川防災と健康フェスタ



令和7年11月1日 現在
総世帯数 8,335世帯
総人口 17,201人
男 8,676人
女 8,525人

芳川地区
地域づくりセンター
☎58-2034

芳川出張所
☎58-2034

芳川公民館
☎58-2034

芳川福祉ひろば
☎57-0168

※芳川地区地域づくりセンター、
芳川出張所、芳川公民館への
連絡は同じ番号となります。

芳川みなみ福祉ひろば
☎86-1055



▲初めてのロープワーク



▲ドキドキの消化器訓練



▲火越し成功!

▲火越し体験



▲健康フェスタ

また同日、民生委員が警察官と一緒に交通安全と詐欺電話の啓発を呼びかけました。75歳以上の方がいるお宅を回り、反射板・ティッシュ等を手渡ししながら声をかけていました。



▲自転車で地震を知らせる役員

9月28日木工町会で避難訓練がおこなわれました。放送が届かない場所は、防災会役員がメガホンでサイレン音を流しながら自転車を走らせ、避難を促しました。その後、防災会役員と希望者20人ほどで炊き出し訓練が行われ、豚汁の調理とアルファ米の試食をしました。

木工町会避難訓練



▲炊き出し訓練

第68回松本市市民スポーツ大会

開催日:10月12日(日)

芳川地区

総合準優勝

選手の皆さんお疲れさまでした!



- 卓球……………3位
- 軟式野球……………3位
- ゲートボール……………5位
- ソフトバレーボール
(T180の部)……………準優勝
(フリーの部)……………優勝
- マレットゴルフ
(男子)……………5位
(女子)……………16位

小屋町会 敬老会

10月13日、小屋公民館にて敬老会を開催。

松本マジックサークル「スマイル」の皆さんによる、マジックショーが披露され、大いに盛り上がりました。



木工町会 敬老会

9月14日、木工町公民館で敬老の夕食会が行われました。

対象は木工町会に加入されている75歳以上の方173人のうち31人が参加し、食事やビンゴ・カラオケを楽しみました。

参加できなかった方には後日お菓子が届けられました。



わが町の キラリ人 Vol.3



野溝 寺田会

寺田会インタビュー 寺田会顧問 矢崎 留二さん

Q.. 寺田会はどのような団体ですか？

A.. 野溝公民館の東側で活動している団体で、親睦・食育が主な活動です。「寺田」という名の由来はお寺の跡地です。

Q.. 寺田会の活動はどのように始まったのですか？

A.. 約30年前に始まり、最初は旅行や宴会などを楽しむ親睦団体としてスタートしました。7年前からは、ゆりかご会と一緒に食育活動へと発展し、芳川公民館や保育園と連携し活動してきました。

Q.. 具体的にはどんな活動をされているのでしょうか？

A.. 畑で、じゃがいも、さつまいも、大根、ネギ、落花生などを育てています。保育園の子どもたちと一緒に収穫体験し、食育の一環として「土に触れる」「食を知る」機会を提供しています。

Q.. 活動を通じて楽しいことは？

A.. 子どもたちが成長していく姿を見るのが何よりの喜びです。

Q.. 活動を続ける中で、どんな課題がありますか？

A.. 作業量も多く、草取りなどの管理が大変です。また、畑の一部は道路工事や土地の所有者の事情で、今後使えなくなる可能性もあります。若い世代の参加が少ないのも悩みのひとつです。



芳川の今昔物語 第47話

ふるおか

村田 正幸

古阜組プラント

その昔

昭和時代には小屋の奈良井川沿いに、古阜組の生コンプラントがあった。周りは田んぼとアカシヤが生えてきた原野だった。

1989年に現地に移転した松本市公設地方卸売市場を核に、松本流通業務団地などが形成されて、中南信地方の流通拠点となっている。

現在は



撮影31970年(写真提供:芳川公民館)



撮影2025年11月9日

団地の中は、民間企業が集中して業務を行っている。フルオカの敷地内には、松本太平洋生コンのプラントが稼働しており、周辺の様相は大きく変わっている。

団地の東側にはほぼ場整備された農地が広がっており、市街化区域と区分されている。

たちばなし

我が家の固定電話の呼び出し音が鳴ることも少なくなり、先日いいよ固定電話を取り外しました。いろいろな危険性はあるものの、いつでもどこでもつながる携帯電話はやはり便利なものですね。

思い返してみるとボケベルや携帯電話があまり普及していなかった頃、友人とよくちゃんといえたいものだな、と思います。10分20分待つのは当たり前。2時間以上待ったこともありました。今から考えると何と無駄な時間を過ごしていたことでしょうか。

みなさんはその無駄な時間に何を考えていましたか。「場所がわからないのかな」「事故にあつたかも」「最初になんて声をかけよう」など、相手の顔を思い浮かべながら、いろいろな想いを相手に寄せていたように思います。

誰でも無駄なく効率的に連絡が取れる便利な現代はすてきです。しかしその無駄な時間は人が優しくなれるとても貴重な時間だったように思います。ようやく会えた時の嬉しさや安堵感には忘れることができません。手紙やはがきも同じかもしれませんね。

もはや昔の生活に戻りたいとは思いません。しかし人とテンポよくやり取りすることを強いられたり急かされたりして疲れてしまうことも多い現代だからこそ、そんなスローで温かい無駄な時間を愛おしく感じてしまうのは、私が歳を取ってきたからでしょうか。